

もく じ
目 次

第1章	はじめに	1
第2章	子どもに対して家庭・地域・学校などがすすめていくこと	2
1	家庭での読書活動のすすめ	2
2	地域での読書活動のすすめ	2
(1)	市立図書館・公民館・児童館での読書活動のすすめ	2
(2)	ブックスタートのすすめ	3
(3)	地域子育て支援センターやファミリー・サポート・センター とうおんでの読書活動のすすめ	3
(4)	ボランティアによる活動のすすめ	4
3	学校などでの読書活動のすすめ	5
(1)	授業時間での読書活動のすすめ	5
(2)	「朝の読書」など一斉読書のすすめ	5
(3)	休み時間などでの読書活動のすすめ	5
(4)	学校に関係する人たちの読書活動のすすめ	6
(5)	子どもたちにできること	6
(6)	障がいのある子どもたちへの読書活動のすすめ	6
(7)	幼稚園・保育所・保育園での読書活動のすすめ	7
第3章	読書環境をよくするために	8
1	市立図書館の取り組み	8
(1)	本の専門家を増やし、子どもの読書相談に答えます	8
(2)	子ども用の本を増やします	8
(3)	「子ども用の本」のコーナーを利用しやすくします	8
(4)	おはなし会の活動を広げていきます	9
(5)	子どもが集まるイベントを開催します	9
(6)	読書感想文を募集します	9
2	学校図書館の取り組み	9
(1)	いつも先生がいます	9
(2)	本を増やします	10
(3)	すてきな図書館に	10
3	学校と図書館などとの協力	11
(参考)	資料集	

第1章 はじめに

現在の社会は、科学技術が進歩してとても便利になってきています。インターネットやテレビなどによって、いろいろな情報を手に入れたり、たくさんの人の意見を聞いたりすることができるようになりました。しかし、それらの中には、あまいな情報やかたよった意見もあり、自分の力で正しい情報を選んだり、いろいろな考え方を受け入れながら考えたりする力が必要となってきました。また、身の回りのことに目を向けると、いじめや不登校、深刻な犯罪なども問題になっています。

このように変化の大きい社会の中で、自分で学び、自分で考え、進んで知識や考え方を深めようとする態度、いろいろな考え方の違いを認め合い協力して生きていこうとする心や優しさを身に付けていくことが必要とされています。

こうした中で、本を読むことは、言葉を学び、感じ取る力を育て、表現力を伸ばし、想像力を豊かにします。読書だけで、世の中のいろいろな問題が解決するわけではありませんが、読書を通して、広く世界の様子を知り、いろいろな考えを身に付け、よりよく生きていく力を付けていくことができると考え、東温市では、この「とうおん子ども読書活動推進計画」をつくることにしました。

この計画は、国や愛媛県と力を合わせて、家庭や地域、学校などで、みなさんが本を読む習慣を身に付けるためにはどうすればよいかを考えてまとめたものです。東温市の大人と子どもは、この計画を実行して、読書活動が活発になるように努力していきます。

この計画は、平成19年4月から平成24年3月までの5年間に取り組む内容を示しています。

1 家庭での読書活動のすすめ

おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんのひざの上うへにちょこんとすわって、絵本えほんを読んでもらった経験けいけんはありますか。子どもたちが生まれて初めて本ほんに出会うのが家庭です。字を読むことができない子どもたちにとって、家庭での読み聞かせは、親子のふれあいにもなり、心の成長せいちょうによい影響えいきょうを与えます。そして、その繰り返しによって身に付いた読書習慣どくしょじゅうかんは、将来、子どもたちの一生の宝として、「生きる力」となり、生涯を通じての楽しみにもなることと思います。さあ、今からでも決して遅くはありません。テレビやパソコンを消して、みんなで読書を楽しんでみませんか。

2 地域での読書活動のすすめ

(1) 市立図書館・公民館・児童館での読書活動のすすめ

地域で子どもの読書活動がスムーズに行われるためには、子どもたちが集まる所あつところにいつも本ほんがあることが大切です。

地域で子どもたちが集まる所とは、どんな所でしょう。市立図書館・川内分館・児童館・中央公民館・川内公民館・地区の分館などがあります。市立図書館は、それらの中心ちゅうしんとなって読書活動をみなさんにすすめる仕事をしていきます。そのために図書館にそろえる本ほんや図書館の施設や設備など、子どもたちが自分で図書館を利用したくなるような工夫くふうをしてくださいます。

小さな子どもや小学校の低学年の子どもたちには、読み聞かせやおはなし会・紙芝居などを通して、想像したり空想したりする楽しさを味わってもらあじることが読書習慣どくしょじゅうかんを身に付けるきっかけになります。また、調べもののアドバイスやおもしろい本の紹介などを通して、図書にはたくさんの種類や内容があることを実感してもらい、自分で自由に選べるよう教えてあげることが必要です。そして、小学校の高学年や中学生になると、活動範囲が広がり、家庭や学校以外への関心が高くなるので、一人一人の興味に合った本をそろえたり、いろいろな種類の本を紹介したりすることで、幅広い読書へとすすめていく工夫くふうが必要だと考えます。

子どもが読書習慣を身に付けるには、家の人の理解が必要です。
「大人が本を読まないから子どもも本を読まない」とよく言われます。
図書館では、大人たちの読書活動も大切であると考え、大人への読書活動もすすめていきたいと思ひます。

また、地区の分館は、地域の人たちが出入りするところの多い所ですから、
こういうところに図書コーナーをつくって大人も子どもも自由に利用できるよ
うにすすめていきたいと思ひます。その他、児童館にも図書室がありますか
ら子どもたちが利用しやすいように図書を増やしていきまひす。

(2) ブックスタートのすすめ

ブックスタートとは、赤ちゃん健診に来たすべての赤ちゃんとお父さん、
お母さんに絵本を手渡す運動です。

この運動には、ただ絵本を手渡すだけでなく、実際に絵本の読み聞か
せを通して、お父さんやお母さんに、読み聞かせの大切さや、方法を知っ
てもらひ、絵本のすばらしさに興味をもってもらひたいというメッセージが込
められています。

もうひとつ大切なことは、お父さん、お母さんが絵本を通してたくさん
の時間、子どもとふれあえるようになることです。

これらのことから、あまり本を読む時間のなかつたお父さん、お母さんにも
自分たちのために読書をする習慣がめばえてくれればよいと思ひます。

東温市では、10か月の赤ちゃんの育児相談教室で、絵本の読み聞か
せはしていますが、絵本のプレゼントはできていません。

初めて出会う絵本をよいものにし、成長した時の広い読書活動のきっか
けづくりのため、ブックスタートを始めまひす。

東温市で、赤ちゃんのブックスタートが始まれば、お母さんのおなかにい
る赤ちゃんへの読み聞かせもすすめていきまひす。

(3) 地域子育て支援センターやファミリー・サポート・センター

とうおんでの読書活動のすすめ

地域子育て支援センターやファミリー・サポート・センターとうおんではお
誕生前の赤ちゃんから保育所や幼稚園に入る前までの小さい子どもたち

が、親子で遊ぶ集まりがあります。

字が読めない小さな子どもたちは、絵本やエプロンシアター、ペープサート、指人形などを手でさわってみたり、本を読んでもらうことで、絵やお話を心の中で動かしたり、想像したりしながら本を読むことの楽しさを味わえるようになります。

また、本の読み聞かせをすることにより、親子のふれあいを大切にし、親子のスキンシップを深めていきます。

これからも小さい子どもが興味をもてるような本の紹介や読み聞かせの方法なども紹介していきます。

注1 エプロンシアターとは、エプロンにキャラクターを貼り付けお話をすること

注2 ペープサートとは、人形劇の一種

(4) ボランティアによる活動のすすめ

東温市ではいくつかのグループが読み聞かせ活動をしています。その一つの「おはなしウーフ」というところの活動を紹介します。

「おはなしウーフ」は物語が大好き！子どもが大好き！の仲間が、子どもたちに『おはなし』を届けに行き、一緒にお話（物語）の世界で遊び、そのよろこびを分かち合いたいと願ってできました。

私たちは本の中にある良いものに力を得、子どもたちの中にある良いものに手を伸ばそうとする力を信じ、子どもたち一人一人の本との良き出会いの場となるよう活動しています。

2002年 7月吉日

注_____は児童文学者松岡享子の言葉

現在、「おはなしウーフ」は、8人で市立図書館、保育所、幼稚園、小学校、愛媛大学医学部附属病院における院内学級、児童館などをまわっています。子どもたちの期待に満ちたきらきらした目を見ることを楽しみに、これからも、このような活動の輪がもっともっと広がるようにしていきます。

3 学校などでの読書活動のすすめ

(1) 授業時間での読書活動のすすめ

学校の授業は、教科書などをもとにして行われ、授業そのものが読書の場になっていることがあります。国語の時間に出会った物語を通して読書のおもしろさに気付いたり、説明文の学習がきっかけとなって読書の世界が広がっていきたりすることもあります。また、総合的な学習の時間などにおいては、「調べ学習」を通して図書にふれたり読書をしたりする機会も多くなっています。

このように、子どもが好きな本を読んだり、調べ学習をしたりする時に一番利用しやすい場所が学校図書館です。たくさんの本と出会う場をつくることで読書の楽しさやおもしろさを知ってもらえます。授業時間に学校図書館をうまく活用することが大切です。

(2) 「朝の読書」など一斉読書のすすめ

市内のすべての小・中学校で、朝、読書をする時間をとっています。授業の始まる前の10～15分間、全校一斉に読書をしています。先生もいっしょに読書をしたり、読み聞かせをしたりする学校もあります。短い時間ですが、みんな集まって、本の世界に入りこんでいます。この「朝の読書」の時間は、進んでいろいろな本を読んでいく読書活動のよいきっかけとなります。また、「朝の読書」から一日が始まるため、気持ちが落ち着き、集中して授業に取り組むことができます。

「朝の読書」は、集中力や想像力を育て、心を豊かにしていく活動として全国的に注目されています。これからも続けていきたいと考えています。

(3) 休み時間などでの読書活動のすすめ

学校の図書館は、業間や昼休み、放課後などに開いています。図書館担当の先生や図書館ボランティアの人がいて、おもしろい本を紹介してくれたり、読書の仕方についてアドバイスをしてくれたりします。どんな本を読んだらいいかまよう子どもや、読書が苦手な子どもには、一人一人ていね

いに相談そうだんにのつてくれます。

また、昼休ひるやすみなどを利用りようして、先生せんせいや図書館としょかんボランティアの人ひと、図書委員としよいいんなどによる紙芝居かみしばいや絵本えほんの読み聞かせよきおこなが行われます。低学年ていがくねんの子どもも文字もじを読むことが苦手よな人も楽しくお話はなしの世界せかいに入はいっていくことができ、次つぎは自分で本じぶんほんを読んでみようという気持ちきもちになれます。

また、休み時間やすじかんには学級文庫がっきゅうぶんこに手を伸ばてしてみるのもよいでしょう。それぞれの学級がっきゅうには、学級文庫がっきゅうぶんこが置かれており、読みたい時よときにすぐに利用りようできます。学級文庫がっきゅうぶんこには、ミニ図書館としょかんとして、子どもたちの関心かんしんが高く、授業じゅぎょうでも参考さんこうになる本ほんがたくさん入れられています。できるだけいろいろな本ほんが読めるように、学級文庫がっきゅうぶんこの入れ替えいもしていきます。

(4) 学校がっこうに関係かんけいする人ひとたちの読書活動どくしょかつどうのすすめ

読書どくしょが好きな子どもたちになるためには、学校がっこうの先生たちも読書どくしょの大切たいせつさについて考かんがえ、知しっておかなければならないと思おもいます。そこで、先生たちも、みなさんが読書どくしょの大切たいせつさや読書どくしょを好きになるための読み聞かせよきおこなや本の紹介しょうかい（ブックトーク注など）の仕方しかたを勉強べんきょうするようにし、学校図書館がっこうとしょかんの先生たちを中心ちゅうしんにいろいろな勉強べんきょうの会かいに参加さんかするようにしていきます。

また、先生たちも読書どくしょが好きになって、みんなで読書どくしょをする習慣しゅうかんを育ていこうと努力どりよくします。

注 ブックトークとは、テーマにそっていろいろな種類しゅるいの本ほんを紹介しょうかいすること

(5) 子どもたちにできること

図書委員会としよいいんかいを中心ちゅうしんに、集会しゅうかいを開いたり新聞しんぶんを作ったりして子どもたちで読書どくしょしようとする習慣しゅうかんをつくっていきたいと思おもいます。また、学校図書館がっこうとしょかんの本選ほんえらびやおすすめの図書としよの紹介しょうかいなど子どもたちでできることを考かんがえて読書どくしょが好きな子どもをふやしていきたいと思おもいます。

(6) 障しょうがいのある子どもたちへの読書活動どくしょかつどうのすすめ

障しょうがいのある子どもたちも読書どくしょを楽しむことができるように、大型絵本おおおたえほんや活字かつじの大きな本おほほん、点字本てんじほんなどを整備せいび・活用かつようし、障しょうがいに応おうじて一斉読書いつせいどくしょや読み聞かせよきおこなを行おこなっていきます。また、定期的ていきてきに読み聞かせボランティア

の人たちとの交流の場をもつことにより、本と出会う場づくりに努め、読書のおもしろさや楽しさを味わうことができるような取り組みが進められています。

病院に入院している子どもたちのための院内学級でも、体調に合わせて、読み聞かせボランティアの人たちとの交流を続けています。病院内での子どもたちの読書環境(大活字本・点字本・録音テープなど)を整え、治療中の子どもたちの生活にうるおいがもてるよう努めています。

(7) 幼稚園・保育所・保育園での読書活動のすすめ

幼稚園・保育所・保育園では子どもたちに、毎日絵本や物語などを楽しむ時間をつくり、ゆったりした時間の中で、年齢に合ったお話を読み聞かせしています。子どもたちは先生の話に目を輝かせながら聞き入り、想像したり、空想したりしながらそのおもしろさを味わっています。この楽しかったという体験が、大きくなってからも「本が好き」になるきっかけにつながります。

子どもは本とふれあいながら、言葉を覚えたり、考えたり、試したりする力を付けていきます。先生に優しい声で好きな本を読んでもらうことで、子どもの心は安定し、いつそ本が好きになってくると思います。

このような子どもに育ててほしいと、いつでも本が手に取れるようにクラス(保育室)の中やホットスペース(廊下や玄関ロビーなど)に本を並べています。子どもの興味・関心を考えて、物語や自然に関する本など様々な本を用意しています。他に園の図書の貸し出しや市立図書館から移動図書館車(かぼちゃん号)が園に来てくれることで、いろいろな種類の本にふれる機会が広がっています。

また、色々な方に読み聞かせボランティアとして来てもらって、読み聞かせをしてもらう日もあります。幼稚園・保育所・保育園以外の人とのふれあいも大切にしています。

1 市立図書館の取り組み

(1) 本の専門家を増やし、子どもの読書相談に答えます

子どもたちが、読書や調べもので図書館を利用しようとしても、図書館に相談できる職員がいないと、自分で考え、自分で調べるといった気持ちを失うことになるかもしれません。

そのようなことにならないように図書館で働く職員が図書館を利用する人たちの質問や相談に、素早く、適切に答えられるよう必要な勉強をしていきます。また、職員がブックトーク・ストーリーテリング・読み聞かせなどの読書活動をすすめる勉強もしていきます。

注 ストーリーテリングとは、物語やお話を覚えて語って聞かせること

(2) 子ども用の本を増やします

子どもたちが、読書や調べもので図書館を利用しようとしても、本が、十分にそろっていないと、子どもたちの期待にこたえられません。

子どもたちのいろいろな要求にこたえられるよう子ども用の図書を幅広く、たくさんそろえていくよう努力します。

数値目標

市立図書館の児童図書の数

平成17年度末 31,385冊 → 平成23年度末 50,000冊

(3) 「子ども用の本」のコーナーを利用しやすくします

子どもたちが読書に親しむためには、のびのびとした雰囲気の中で本とふれあうことが必要です。本館では、2階が「子ども用の本」のコーナーになっており、必要な広さにはありますが、本棚が高く子ども向きではありません。「子ども用の本」のコーナーの本棚を背の低い本棚に変更していきます。

また、川内分館は、「子ども用の本」のコーナーなどもなく、子どもも大人も読書を楽しむには小さい施設なので図書館としての役割ができるような施設に変えていきます。

(4) おはなし会の活動を広げていきます

おはなし会は、子どもの読書活動を進めていく上で、中心となる活動です。

市立図書館では、おはなしボランティアグループが中心となって、月4回おはなし会を行い、そのうち2回は、0歳児から3歳児を対象としたもので、多くの子どもたちが家の人といっしょに楽しんでいます。

川内地区では、おはなし会が行われていないので、川内分館でもおはなし会をできるように活動の範囲を広げます。

(5) 子どもが集まるイベントを開催します

子どもに図書館を利用してもらうためには、図書館に行きたくなるようなきっかけが必要です。

たとえば、4月23日は、『子ども読書の日』と決まっていますので、『子ども読書の日フェスティバル』を行っています。また、夏休みには『おばけ大会』を行い、親子で図書館に来てもらっています。

読書の習慣のない子どもがイベントを通して、家の人といっしょに図書館に行くことが、最初の一步になります。そこで図書館では、親子で楽しめる『イベント』を行います。また、本に興味をもってもらうために『今月のおすすめ本』コーナーなどをよりよくして、読んでほしい本をすすめています。

また、子どもたちの読み終わった不用な本があれば、図書館でリサイクル図書として再利用していきます。

(6) 読書感想文を募集します

秋の読書週間の行事として『読書感想文』の募集を行っています。本を読み、その感想を書くことで、文章の意味を読みとる力や文章を書く力・表現する力を付けることができますので、これからも続けていきます。

2 学校図書館の取り組み

(1) いつも先生がいます

それぞれの学校には図書館の先生がいて、みなさんが読みたいと思うような本や授業で必要な資料を集めたりしています。しかし、図書館の先生

も授業や出張などでいない時もあります。そこで、学校の先生たちや図書館支援員などのボランティアの人に協力してもらって、いつでも図書館に先生がいるようにします。そして、調べ学習をする時に本を紹介したり、調べ方についてアドバイスをしたりします。また、子どもたちが本を選ぶための相談にのったり、休み時間などには紙芝居や絵本の読み聞かせをしたりします。

いつでも先生がいるので、本が読みたいと思ったら、気軽に図書館に行き読んで読むことができます。

(2) 本を増やします

子どもたちに、アンケートをとって子どもたちが読みたいと思う本や調べ学習に役立つ本を、できるだけ学校図書館に入れていきます。朝の読書のための本や調べ学習のための本をたくさんそろえていきたいと思えます。市立図書館から本を借りたり、移動図書館車(かぼちゃん号)に来てもらったりしながら、いろいろな本に出会えるようにしていきます。

<p>すうちもくひょう 数値目標</p>			
<p>がっこうとしょかん じどう せいとひとり としよ かず 学校図書館の児童・生徒一人あたりの図書の数</p>			
へいせい	ねんどまつ	さつ	へいせい
平成17年度末	28.7冊	→	平成23年度末 38.7冊

(3) すてきな図書館に

子どもにとって「行きたい図書館」「長くいたい図書館」を目指して、設備を整えます。明るくきれいで静かな図書館、本棚や机、椅子などがきちんと整った図書館、必要な本を探しやすい図書館、新しい本がたくさんある図書館など、子どもにとって読書や調べ学習にふさわしい、親しみのあるものとするのが大切です。

東温市では、すべての小・中学校に本を管理するためのコンピューターシステムを入れます。図書館に本がたくさんそろってくると、手作業では図書を管理することが難しくなってきます。コンピューターを使えば、本の管理を簡単に行うことができ、子どもが自由に図書を探したり、簡単に貸し出しを行ったりすることができるようになります。

そのほか、市立図書館やほかの学校図書館とネットワークで結ぶことで、

必要な図書のある場所を確認したり、図書館同士で図書の貸し出しを行うことができるので、とても便利になります。

平成23年度までに、市内のすべての小・中学校にコンピューターによる図書の管理システムを設置します。

3 学校と図書館などの協力

子どもが楽しく読書ができるように、市立図書館や地域の分館などが協力しています。

市立図書館の見学をすることもできます。

市立図書館の本を貸し出してくれる移動図書館車(かぼちゃん号)が学校に行きます。また、学習に必要な本が学校の図書館にない時は、まとめて市立図書館から借りることができます。

このように協力していくことで、子どもの読書活動をよりいっそうすすめていくことができます。



いどうとしょかんしゃ

ごう